

カンゴク沢右俣

1994年7月9日

L5

標高1260m付近の尾根上から、カンゴク沢の右俣めざして下降に移る。すぐに支沢と出会い、水流が出てきた。右俣本流に出ると2mの小滝があり、その後左岸から同規模の支沢が合流した先には小滝が4つ連続していた。

さらに下降を続ける。ナメと小滝を過ぎると、右俣最大の滝6m。難なく下る。そのすぐ下に、左俣を遡行していった時二俣から見えていた滝である3段5mの滝。ここも簡単に下ると左俣と合流し、右俣の下降を終了する。(記・穴戸宰務)

【タイム】 尾根(10:45)→下降終了(11:40)

南沢(上部)

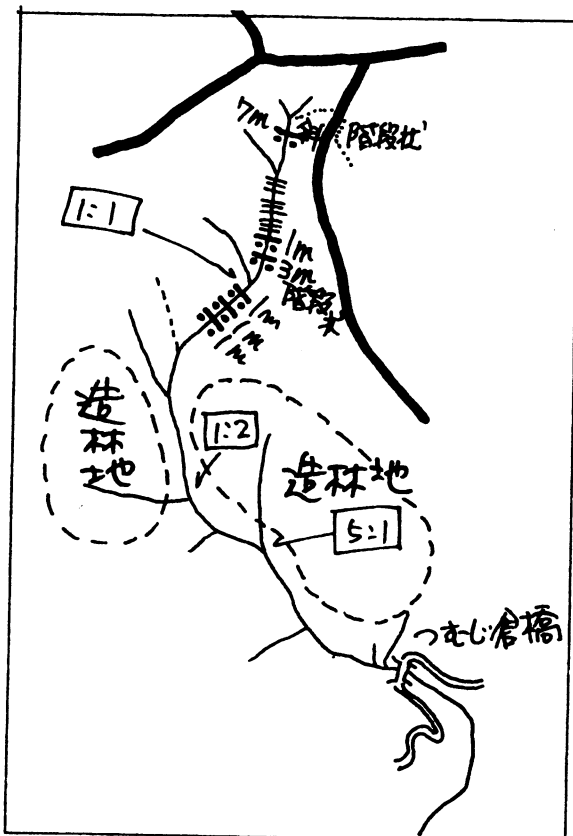
1994年8月27日

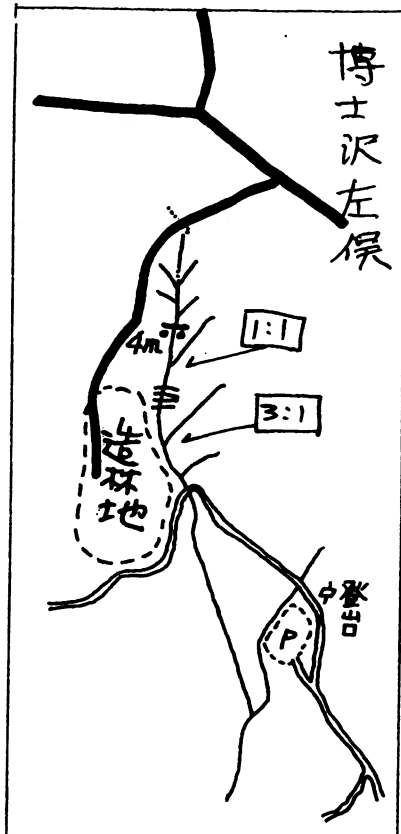
L3

博士山登山口の貯木場跡の広場から、車で南沢にかかるつむじ倉橋に向かう。橋の手前に車をデポし、身支度を整えて沢に降り立つ。そう広くない河原だが、鬱蒼として、まんざらでもない。

左岸から小沢が入る。するとすぐ左岸側が明るく開け、造林地が広がっていた。灌木が覆いかぶさって歩きにくい。右に左に支沢を分けるが、本流を忠実につめる。

造林地を過ぎるあたりから、1mほどの小さな滝だが、連続して出てくる。3mの滝を過ぎ、50mほどのナメが断続して出てくると、高度を上げ始める。角度のゆるい7mのナメ滝を過ぎると、稜線まではもうすぐである。そのまま進





むと東川に下降することになるので、少し戻ってから、博士沢左俣の下降に移るべく、右斜面をヤブこぎして尾根に出る。(記・)

[タイム] つむじ倉橋(8:10)→遡行終了(10:15)
→尾根(10:30)

博士沢左俣

1994年8月27日

L系

南沢から尾根を越えて、博士沢左俣の下降点に移動する。ヤブこぎは、さほどでなかった。沢に降り立つといったんは水流が出てきたが、いつのまにか沢は消え、背丈ほどのササがかぶさり、ヤブこぎを強いられるようになった。

再度水流が出てくる。まわりはブナやミズナラの樹林帯で歩きやすく、快調に下降ゆく。や

がてこの沢で唯一の滝4m。左岸をクライミングダウンで降りる。

高度を下げてゆくと伐採地に出、沢は平坦となる。沢の中はブッシュがひどく、歩けない。しかたなく右岸の伐採地を歩き、登山口からのびている林道に出た。あとは車を置いてきたつむじ倉橋まで、林道を歩く。

(記・)

[タイム] 尾根(10:35)→源頭(10:40)→不動沢林道(11:30)

博士沢右俣

1994年7月16日

L系

博士山登山口駐車場の脇の沢である博士沢右俣に入

